

第2回懇話会におけるご意見の概要について

【エリアの範囲設定・ビジョンの名称等について】

- ① エリアは西公園通境界まで広げることがよい。また、範囲との整合や対外的な知名度、今後売り出していくこと等を考えると、「定禅寺」や「定禅寺通」をビジョンの名称に入れた方がよい。
- ② 面としてエリアの価値を上げていくうえで、エリアのシンボルとなり、多くの人が想起できる「定禅寺通」を名称に入れるべき。
- ③ ビジョンのターゲットにより名称も変わる。エリアの関係者だけでなく外向きに、シティセールスやブランディングも含めて考えるのであれば、仙台のシンボルであり、ケヤキのインパクトがある「定禅寺通」を名称に掲げることがよい。
- ④ 西公園の方までをエリアに含めれば、外向けにアピールする際「広瀬川左岸からつながる定禅寺通沿いにあるエリア」という地理的なイメージを伝えられる。また、定禅寺通がエリアの軸として際立ち、沿道施設とともに個性を強める役割を担うことが明確となるので、ビジョンの名称にも「定禅寺通」が含まれるとよい。

【ビジョン全体の方向性について】

- ⑤ まちづくりと商品開発は似ている部分が多く、地域性や歴史性等を意識し、こだわりつつも独り善がりにならないように留意する必要がある。
- ⑥ エリアの特性やデータに立脚し、そのうえで少し壮大なことも盛り込んでいくというロジックにしなければ、言葉が踊ってしまう。
- ⑦ 居住者数や就業者数は増えているのに歩行者数が減っているという現状について、要因を考慮しておく必要があり、もしかするとそれがビジョンの答えになるのではないかと。
- ⑧ 魅力的な商業地の遷移や人々の志向・行動の変化が、勾当台周辺の歩行者数減少の要因ではないか。
- ⑨ 40年ほど前は、皆が仙台駅の方から定禅寺通の方までぐるっと歩いていたというわけでもなく、郊外から都心に点在していた百貨店へと、車で直接買い物に行き、それぞれのエリアの中で動いていたという行動もあった。
- ⑩ 仙台に来た人にどこを見せたいかというのが、それこそウォークアブルの範囲内で1枚の図に収まっていて、その中で特に勾当台が輝いているという恰好だとよい。

【コンセプト等について】

- ⑪ コンセプトは「センター」より「コア」という、深みのあるイメージの言葉が合うのではないかと。
- ⑫ こう変わるんだ、というメッセージが読み取れるとよい。
- ⑬ 「ミックス」という考えは面白いので、それを仙台駅周辺だけでなく、様々なエリアとの連動性・つながりの中で整理し、コンセプトやまちづくりの理念、施策の方向性を定めていくべき。
- ⑭ 開発等のハードの話も出ている中で、「協働」は仙台らしい言葉だが既に盛んであり、ダイナミックな展開につながる手段とはなりにくいのではないかと。
- ⑮ 多機能なエリアだからこそ、キーワードを全部並べて網羅するというより、現実のイメージとすり合わせ、何に重点を置くのかを明言することが重要。そうすれば、投資したくなる、住みたくなるという動機になるのではないかと。
- ⑯ 仙台駅が都心のエントランスであることは当然かもしれないが、そこから勾当台・定禅寺通の方に人を連れてくる、または直接来てもらうということを意識し、その要素を踏まえる必要がある。
- ⑰ 「ゆとりのある職住近接」のような打ち出し方・売り出し方ができるエリアではないかと。
- ⑱ 職住近接とともに来街者にもアピールするという、両方が重要ではないかと。
- ⑲ 職住近接で楽しいところなら、エリアの外の人でも歩いて来られる。重要なのは「楽しい」が先であること。この「職住近接」は、楽しいまちをつくるうえでターゲットは近くにもいるということ。

【エリア構想図等について】

- ⑲ 市民広場と定禅寺通という2つの重点ゾーン設定は理解できるが、本当に重点なのは一番町四丁目商店街と定禅寺通との交差点付近ではないか。ここを仙台の中心の中心と位置付け、商業的な魅力向上や大胆な空間整備等に向け、注力していくことが重要だと思う。
- ⑲ エリアを大切にする、ケヤキのある景観を維持していく観点から、ケヤキの植え替え等も考えていくべきではないかと。
- ⑲ かなり遠大な話かもしれないが、数十年スパンで、勾当台公園から定禅寺通を東に、錦町や花京院を通して南の仙台駅の方まで、ぐるっと歩いて回れるような仕掛けなり空間整備をすれば、エリアに来る人も増えるのではないかと。
- ⑲ 公共施設は、主に民有地の活動を支え、誘導するために整備すべき。施策検討のイメージとして書かれている内容は悪いことではないので、説明の順番や論の組み立てを工夫する必要がある。
- ⑲ 公共施設は、市民や多くの人々の意見を反映しながら整備することが可能で、一定の集客力もあるので、深い内容まで書き込む必要があると思う。そのうえで、本町や立町等、若い力や個性的な新しい力が集積し始めているエリアと連動しながら、民有地についてもある程度、どういうものを目指すのか、考えを示していく必要がある。